

島根県バドミントン協会

—— これまでのあゆみ

島根県バドミントン協会は、昭和24年12月24日に創設した。協会の歴史として、昭和24年松江産業高校商業部（当時は松江市津田町）の石原幸雄氏と鈴木晃氏の下で女子の体育の授業にバドミントンを取り入れ、同時に同好会として発足したのが始まり。翌年の昭和25年には松江商業高校（昭和24年～昭和28年は松江産業高校商業部）のバドミントン部として活動が開始された。この年には第1回全日本高等学校バドミントン選手権大会が横浜で開催されたが、この時は講習参加となった。

松江商業高校の資料によると、昭和27年に第3回全日本大会があり、初参加で男子がベスト16の成績を収め、注目を集めたと記載されている。また、昭和31年の第7回大会では男子団体が優勝、翌年の第8回大会は準優勝するなど、創部当時から全国で注目を集めており、島根県バドミントン協会にとって、その後の発展に大きく寄与してきた。

昭和57年の第37回国民体育大会（くにびき国体）は当時の大東町民体育館、平成7年の第46回全国高等学校総合体育大会を松江市で開催するなど、県内のバドミントン普及に繋がることとなった。その後、ジュニアの育成に向け各地域でジュニアクラブを立ち上げるなど強化、普及に繋がっていったことは言うまでもない。そのような中、山陰合同銀行では実業団の女子バドミントン部を創設し、現在ではS/Jリーグ（日本バドミントントップリーグ）で活躍を続けている。島根県でもS/Jリーグ松江大会として開催している。



バドミントンS/Jリーグ2023松江大会 山陰合同銀行 VS NTT東日本

—— 現在の状況

現在、社会人でもクラブ連盟を立ち上げるなど島根県バドミントン協会はジュニア連盟・中体連専門部・高体連専門部・学生連盟・教職員連盟・レディース連盟・社会人クラブ連盟・実業団連盟の8連盟で連携を取りながら普及活動を続けている。

同時に協会主催大会をはじめ各連盟主催大会などで1年を通してどこかで大会を開催している状況で、仲間の連帯、選手の強化など推し進めている。

特にジュニアでは、中国地区大会や全国大会などで活躍し、上位の成績を収めている者も多くいるが、今では中学、高校は県外へ向かう傾向にあることは否めない事実で、協会として彼らを県内にとどめる施策に乏しいのが現実である。また一方で、今後の中国地区、全国レベルの大会開催には上級審判資格が必要となり、資格取得のためのフォローも欠かすことができない課題である。

—— これから

2030年島根かみあり国スポに向け、この2年は成年女子が8位入賞を果たしているが、成年男子・少年男女の強化が喫緊の課題となっており、そのための強化を進めつつある。

引き続きジュニア世代の育成、強化をさらに進めることと、その受け皿となる中学校・高校との連携も不可欠で、更に成年男子については大学などで活躍している人材を県内に戻すため、全国レベルで活躍できる男子実業団（クラブ）チームの立ち上げが課題となっている。



令和5年かこしま国体成年女子
高崎夏実選手⑤ 田部真唯選手